

(1) 取材報告新聞

「響け！名東のうた“わがまち名東”フェスティバル」取材しました！

「チーム名東」は、2008年8月1日（金）に名東小劇場で行われた「響け！名東のうた“わがまち名東”フェスティバル」取材しました。取材者は椋山女学園大学教育学部1年の辻由佳と恒川典子です。それではフェスティバルの様子をご紹介します！



このフェスティバルは、昨年度、名東のうたとして作成された「わがまち名東」を区民のみなさんに知ってもらうため、主に名東区で活動している8つの市民団体が集まり、それぞれがコーラスや楽器を用いて「わがまち名東」を演奏するとともに、日ごろ練習している自由曲を披露するというものです。会場には猛暑のなか250人程が集まり大盛況。出演されたみなさんは、どれもバリエーション豊かな素敵な演奏を披露してくださいました。2番目に登場した「藤が丘コーラス」の神田さんは、輝く笑顔で舞台裏に戻ってきて「上手く歌えました！」と満足そう。そして「リズムの難しい曲ですが、歌詞もよく、名東区をアピールするにはピッタリの曲ですね。『わがまち名東』をもっと知ってもらうためには、歌う機会をもっと増やすことが大事だと思います。名東区の小学校で子どもたちが授業で歌ったらどうでしょうか。子どもたちが元気よく歌えばどんどん広まっていくような気がします！子どもが家で口ずさめば、おうちの方々も興味を示してくれるでしょう。そのようにして、この歌が広まっていったらよいなと思います」というお話を聞かせてくださいました。



またこの企画の運営にずっと携わってこられた、名東文化小劇場の職員の杉浦さんも、「第1回目ということで不安もありましたが、こんなにたくさんの人たちに参加していただけるとは思っていませんでした。とてもうれしかったです。いろんな演奏形態で『わがまち名東』を発信でき、本当によかったと思います」と明るい表情でお話されていました。

これからも、わたしたち「チーム名東」は名東区内で行われる素敵な催しに参加し、出演者や主催者の方の生の声取材して、みなさまにお届けしようと思っています。

「名東生き物イキキフェスタ」取材しました！

「チーム名東」は、2008年8月8日（金）に名東区役所で行われた「名東生き物イキキフェスタ」取材しました。取材者は椋山女学園大学教育学部1年の辻由佳・守永光希と2年生の木下綾子です。それではフェスタの様子をご紹介します！



このフェスタは、2010年に名古屋市で開催される「生物多様性条約第10回締約国会議」に向けて、名東区民の意識を高めようと企画されたもので、会場には名東区にある牧野が池に生息する魚や虫が展示されていたり、環境についての理解が深められるようなクイズやゲームができるブースが複数設けられたり、竹から竹とんぼやマイはしを作る手作りコーナーがあったりと、子ども達や区民のみなさんが楽しみながらも、さまざまな生き物がこれからも仲良く暮らしていけるような環境を作っていくためにはどうしたらよいかを考えることができる工夫が凝らされていました。

10時の会場とともに、「生き物を大切に！」の絵画コンクールで入賞した小学生への表彰式、名東区内の保育園児による環境を大切にしようの歌と踊りが披露され、会場には200人以上の子どもと区民のみなさんがつめかけ、会場は活気にあふれていました。

来場した小学校6年生の女の子は、「たけとんぼを自分で作れるコーナー」が楽しかったといい、「楽しみながら生き物のことを考えることができたのでよかったです。自転車をこいで電気をつくるとか、体験できるエコなものがあつたらもっとよかつたかな」というお話を聞かせてくれました。お孫さんを連れて来場されていた60代の女性は、「孫と一緒に参加しました。勉強になるし、心が豊かになるのでこういうイベントにはなるべく参加するようにしています。メインは生き物なので、ただ展示するだけでなく説明する人が展示の側に常にいるようにすれば、子ども達はさらに惹きつけられるのではないのでしょうか。」というお話を聞かせてくださいました。



また、ネイチャーゲームのブースでボランティアとして活動していた40代の女性は、「私たちは、ネイチャーウォッチングという、自然の中を植物や昆虫を見ながら歩く活動を行っています。とてもよいコミュニケーションですよ。参加者は60代以上の方も多いのですが、彼らの好奇心はすごい！！探究心や発見を楽しむ心は、今の子供たちには少なくなっているんじゃないかな。お金を使わずにとってもよい経験ができます。ぜひ若い子たちにも参加していただきたいです。これがそのきっかけになれば」とお話ししてくださいました。



「生物多様性」という言葉は分かりにくい、難しいという意見がよく聞かれますが、子どもから大人までが「さまざまな生き物がこれからも仲良く暮らしていけるような環境を作っていくためには私たちはどうしたらよいか」を考えることができるよい機会になったと思います。

「生物多様性」という言葉は分かりにくい、難しいという意見がよく聞かれますが、子どもから大人までが「さまざまな生き物がこれからも仲良く暮らしていけるような環境を作っていくためには私たちはどうしたらよいか」を考えることができるよい機会になったと思います。

「猪高緑地での自然散策会」取材してきました！

チーム名東は2008年9月13日(土)に猪高緑地で行われた自然散策会取材しました。取材したのは椋山女学園大学教育学部2年生の寺西綾乃、原田恵里と、1年生の大村理恵・森友紀の4名です。



「自然散策会」は2001年から年6回ほど開かれており、名東区の「緑地が多い」という特色を生かして、区民のみなさんに自然が残されているのを知り、自然のよさ

を感じてもらいたいという願いから続けられているものです。今回は40名ほどの区民のみなさんが参加され、4つのグループに分かれ、それぞれにスタッフが何人かつき、周りの自然を楽しみながら目的地までそれぞれのグループのペースで歩きました。

途中、スタッフの方々から、あちこちに咲いている花や草の名前や由来を教えてもらったり、蜘蛛の巣のくっつく糸とくっつかない糸の違いを実際に糸に触りながら教えてもらったり、どんぐりを拾って種類の違いについて説明を受けたり、「むかご」を採って食べたりしながら歩きました。また、大きな木の幹の中の音を聴診器で聞いてみるというはじめての経験もさせてもらえました。



今回の散策会にはアメリカ・中国・韓国からの留学生が4名参加していて、「日本の自然は素晴らしい。とてもきれいです」とおっしゃっていました。また参加された女性は、「こんなに近くにこんなに素晴らしい自然が残されているのを知り驚きました。いい散歩道を教えていただいたので、今度は友達と来てみようと思います」とお話されていました。

今後も、「動物と人間の住み分け」「生物の多様性」「里山的な暮らし」をテーマに、自然散策会が続けられていく予定です。ぜひみなさんも参加してみませんか？

「寺子屋 in 平和が丘」取材しました！

「チーム名東」は2008年9月28日(日)に平和が丘コミュニティセンターにおいて、名東区社会福祉協議会が開催した「寺子屋 in 平和が丘」取材してきました。取材したのは、椋山女学園大学教育学部2年生の一谷梨絵、長谷川真咲、太田裕万の3人です。

このイベントは、小さな子どもから高齢者まで、地域に住んでいる誰もが、健康体操やボール遊びなど様々な活動を通して、ふれあいながら交流できるイベントです！今年で4年目になり、年間2～3回開催しています。



寺子屋は1限(10:00～11:10)と2限(11:20～12:30)に分かれており、参加者は好きなイベントを選んで参加することができます。1限には、「ポッチャ」と「地域実践講座～園芸教室(花の育て方)」がありました。「ポッチャ」とはボールを使った、誰にでも出来る簡単なスポーツで、子どもから大人まで一緒に楽しめる障がい者スポーツです。会場には、車椅子に乗った障がい者の方3名と、小学生2名、そして大人の方々が、青色のボールチームと赤色のボールチームとに分かれて、自分達の転がしたボールをどれだけ、白いボールに近づけられるかというカーリングのようなスポーツを楽しんでいました。「園芸教室」には、40代～60代くらいの女性10人が参加しており、「どのくらいの量でいつ肥料を与えるべきか」という肥料についての勉強をしていました。

2限には、「健康体操」と「認知症講座」がありました。「健康体操」では、ストレッチをしたり曲に合わせて体操したり、最後には「ポニョ」を踊ったりして、みんな爽やかな笑顔で楽しそうでした。「認知症講座」では、認知症についての正しい知識を得て、認知症の方への接し方などについて学ぶことを目的に、講師の先生からお話を伺いました。



また1限と2限の両方に、「伝承あそび」と「親子サロン」という子供向けのブースが開かれていました。「伝承遊び」では子ども達がけん玉やコマ回しで遊んだり、おじいさんと将棋をしたりしていました。「親子サロン」には乳児から3歳くらいまでの子ども達がゆったりと遊べるように、おもちゃが準備され、絵本の読み聞かせもありました。

このイベント取材してみて、「こんな素敵な活動ならばもっとたくさんの方が参加すればいいのに」という感想をもちました。主催者の方も、「子どもの参加が少ないため、どうしても年齢層が高くなってしまいます。貴船では、子ども会が主催しているため、子どもの参加が多いそうです。今後は平和が丘も子ども会や自治会と連携をとって、子ども達の参加が増えるようにしたい」とお話を聞いていました。この素敵な活動が、多くの人に認知され、盛んになるといいなあと考えながら、会場を後にしました。

「名東区民芸能まつり」を取材しました！

「チーム名東」は2008年10月3日（金）に名東文化小劇場で行われた「区民芸能まつり」を取材しました。取材者は椋山女学園大学教育学部1年生の守永光希、松岡彩、串田千菜美です。

「名東区民芸能まつり」は名東区ができたころから秋祭りとして行われてきた伝統のあるお祭りです。「文化香る、活気と思いやりのあるまち」のスローガンのもと、区民の文化活動を支援するとともに、一人暮らしの高齢者を招待することにより、交流の場をもうけることを目的に行われています。学区区代表および公募の一般参加により、民踊・日本舞踊・民謡・詩吟・奇術・コーラス等の発表が行われました。



会場は立見の方が続出するほどの満員盛況ぶり！出演した70代の女性は「今日は名東区民で体の調子よかったので参加しました。色々な種類の出し物があり、また知っている人が見に来てくれるので楽しいです。健康のためにも良いと思います」とお話してくださいました。また、観覧していた50代の男性は「今日は妻が踊りで出演するので見にきました。とっても上手でした。妻が踊りを習っているの、このホールで踊りの公演などがあったら見に来たいですね」とお話されていました。

私たち取材者は、出番を終えられて舞台裏に戻ってくる出演者の方にお話を伺っていたのですが、どなたもいきいきとした表情をされていて、発表が楽しいものだったことがわかりました。人生を豊かにするための習い事も、このような発表の場があれば、よりいっそう練習にも力が入るでしょう。それぞれの団体が日頃の練習の成果を発表しあい、交流を深められるこのような会はとても重要だと感じました。また、この会の舞台設営は、舞台ボランティアの「豆の木」の方がなさっています。「豆の木」のみなさんは、音響・照明・司会など、このような舞台での公演で、なくてはならない裏方をすべて担っており、このような区の催しではいつもボランティアとして活躍されるそうです。「もう何年も関わっているので、わたしたちのなかで役割分担がしっかり出来上がっており、気持ちよく連携して動くことができます。区民の方へお役に立てているのでうれしいです」とお話してくださいました。このような区民のみなさんの善意の努力がこのようすばらしい会を支えているのだと感じました。



「敬老（ふれあい）給食会」取材しました！

「チーム名東」は2008年10月20日（月）に前山小学校で行われた「敬老（ふれあい）給食会」を取材しました。取材したのは椋山女学園大学教育学部1年生の守永光希と松岡彩です。

校長先生によると、昨年までは高齢者のみなさんだけで別室で給食を味わってもらっていましたが、今年からは、実際に教室に入っていただいて、子ども達との「ふれあい」を楽しみながら昼食をとるという形態にしたそうです。



ふれあい給食は、まず、栄養教諭による「高齢者の食事と栄養についてのお話」から始まりました。栄養教諭の小林先生が、漫画やクイズを使ってわかりやすく説明してくださいました。

4時間目の終了を知らせるチャイムが鳴ると、各教室担当の子どもたちがお年寄りのみなさんを迎えにきてくれます。そしていよいよ各教室に分かれての給食タイムです。子ども達はお客さんの存在に、嬉しくてうきうきした様子。自分がどこに住んでいるか、家族構成、習い事などについて、口々にお年寄りに話しかけています。お年寄りのみなさんも、ニコニコと嬉しそうに対応されています。そしてあっという間に給食の時間は終わり、短い時間でしたが、折紙を一緒に折ったり、クラスで育てた朝顔の種をお年寄りにプレゼントしたりして、給食会は終了しました。

参加した70代の女性にお話をうかがうと、「初めて会う子ども達だったので、ご飯を食べながら間がもつかなあとはじめは少し心配だったのですが、子どもたちがいろいろと話しかけてくれ、折り紙を作って寄ってきてくれたので楽しかったです。毎年参加しているので来年もまた参加したいです」とのお話を聞くことができました。



この活動に参加してみて、この「ふれあい給食会」は高齢者にとっては、お孫さん以外の子どもと触れ合ったり、小学校の給食を味わったりと楽しい時間を過ごすことができ、また子ども達にとっても普段は関わりの薄い高齢者の方とかかわりをもつ貴重な機会になっていると感じました。ただ、参加者が高齢者なので、足の悪い方もおり、階段をのぼって教室に移動するのが大変な方もいらっしゃいました。また、主催した自治会の方による

と、前日に地区の運動会があったために、例年よりも参加者が少なかったとのことでした。

地区の高齢者の方の生き生きとした生活のひとこまになる「ふれあい給食会」。これからも多くの子どもとお年寄りのふれあいの場として続いていってほしいなあと感じました。

「名東図書館に行ってみよう！不要本リサイクル会」取材しました！

「チーム名東」は、2008年10月25日（土）に名東図書館で開催された「名東図書館に行ってみよう！不要本リサイクル会」取材しました。取材者は椋山文学園大学教育学部1年の辻由佳と恒川典子です。それではイベントの様子をご紹介します！



このイベントは平成4年より毎年行われているので、今年も400名を超える来場者があり、大盛況でした。この会は、購入してから5年程経ち、ポロポロになってしまい、本来廃棄されてしまう本を必要とする人に譲り、リサイクルすることを目的に行われています。これを機会に区民の方々に名東図書館に足を運んでもらうことで、今後も継続して図書館を利用してもらえるようにすることも目指しています。“捨てるはずの本に命を吹き込む”この素敵なイベント！その様子をレポートします！

会場では絵本や児童書が大人気。絵本や児童書はすぐになくなってしまいました。絵本を希望されている方は、なんと当日朝5時30分から並ばれたそうです。後ろに並ばれている方にも本がまわるように、選書時間は20分、児童書は5冊まで等の制限があります。そのためか「20分は短い！もっと本をよくみて選びたかった！」という声も。小学生の女の子はさくらもこの本など、欲しい本が手に入り、嬉しそうです。また本日2番目に列に並んでいた男性も、お目当ての鉄道の本が入手できたのでとても喜んでいました。



家族連れも多く、子ども2人と一緒に来ていた30代の女性は「今日で参加は3回目です。普段は値段が高くて買えないので、子どもと写真を見て勉強できる地図や図鑑などがもっとあると良いです」とおっしゃっていました。また、ほかの地区の図書館のリサイクル会にも参加しているという40代の男性は、「16区で行われている本のリサイクル会に、ほぼ参加しています。今日も中川区でやっています。でも、2区以上で日程が重なると参加できなくなったりするので、日程のダブリはやめてほしいです」と述べていました。

取材してみて、本来ごみとして捨てられてしまう本を、図書館を盛り上げるのに役立て、リサイクルにもなっていることがとてもよいと感じました。また運営面でも、整理券が配られ、訪れた方がずっと並んでいなくて済んだこと、時間制で待っている人が待ち時間を把握できるようになっていたことなど、工夫が見られました。取材陣の私たちも、来年は本を受け取る側として参加したいな、と思う素敵な会でした。

「お楽しみ演芸会」取材しました！

チーム名東は、2008年10月31日（金）に名東福祉会館で行われた「お楽しみ演芸会」取材しました。取材者は椋山女学園大学教育学部1年生の松岡彩と串田千菜美です。それでは当日の様子をレポートします！

名東福祉会館での「お楽しみ演芸会」は35年も続く伝統ある催しです。主催者の名東福祉会館の館長の上島さんは、「名東福祉会館では、民踊などの高齢者向けの講座を開き、心身の健康のために活動をしています。このような活動をすることで、高齢者の方々は仲間ができ、居場所ができます。その講座でやっているものの発表の場となるのが、「お楽しみ演芸会」です。発表会があることで、受講者のみなさんはそれに向けてがんばり、熱中します。そして、熱中することで、若さや健康を保つことができ、また生きがいをもつこととなります。また、当日は幼稚園の子達にも来てもらうことで、世代を超えた交流も行います。この発表会に地域の高齢者をお招きすることで、さらに利用者を増やしたいと考えていますのでぜひ宣伝してくださいね！」と今日のこの会の趣旨についてお話ししてくださいました。



琴の演奏を終えた70代の女性にお話を伺うと、「1年間かけてこの日のために練習をしました。毎年ここで演奏していますので。ほかではやりたくないです。ここでやるのが楽しみなんです」とのことでした。ほかの講座を受講している方ともそれぞれ顔見知りようで、みなさん久しぶりの再会を喜び、話に花が咲いていました。そこに割り込んで取材をするのが申し訳ないくらいです。

出演者のみなさんはみなさんとてもいきいきして人生を楽しんでいるようでした。また高齢者のみなさんの活動を支えるスタッフの方もみな一生懸命な様子でした。このような素敵な会がこれからもずっと続くとよいなあと思ひながら会場を後にしました。

「ふれあいウォーク名東」取材しました！

チーム名東は、2008年11月3日（月・祝日）に明德公園で行われた「ふれあいウォーク名東」取材しました。取材者は椋山女学園大学教育学部2年生の岩間絵里佳と草田梨愛です。それでは当日の様子をレポートします！

「ふれあいウォーク名東」は名古屋市が行っている「なごやかウォーク」の一環に位置づくものです。「なごやかウォーク」は春と秋を中心に、市内16区の選りすぐりのコースを歩くもので、今後



も「なごやかウォーク守山」「天白なごやかウォーク」「中区ファミリージョギング&ウォーキング大会」「南区さわやか大会」「見上げてごらん金シャチウォーク09」など各区で行われます。参加するとそれぞれ趣向を凝らした「参加バッジ」がもらえるのでそれを集めるのも楽しみのひとつ。ぜひ日程や場所を名古屋市公式ホームページでご確認ください！

さて、明德公園で行われた「ふれあいウォーク名東」には、子どもからお年寄りまでのさまざまな年齢層の250名以上が集まりました。会場の明德公園には、四季を通して鳥・虫・花を観察することができ、里山の雰囲気を楽しむこともでき、また中央にある明德池は市民のつり池となっています。わたしたちは河川敷の4キロのコースを思い思いのペースで歩きました。

取材した1組目は、おじいさんとおばあさん、そしてお孫さんの3人組での参加でした。今回が初めての参加ということです。普段は名東区に住んでいないお孫さんが久しぶりに帰ってきたので、コミュニケーションを取ることも兼ねてみんなで参加されたそうです。3人で手を繋いで、和気藹々とウォーキングを楽しまれていました。取材した2組目は、参加10回目のベテランの男性です。「なごやかウォーク」の他のイベントにも参加しているから今回も参加しました。このイベントは名古屋の知らないところを歩くので、こんな所もあるのかと新しい発見があるからとてもよいです。まだイベントがあるので他の所も歩きたいと思っています」とお話されていました。



イベントにはウォーキングだけでなくゲームコーナーがあり、子ども達が楽しめるような工夫がされていること、さらに、スタンプラリーになっていて他のイベントにも参加してもらえるように発展的な工夫がされているところがとてもよいと感じました。

4kmという道のりは、歩く前はすごく長く感じましたが、河川敷を歩くためとても気持ちがよく、あっという間でした。参加された方々も、疲れたという表情ではなく、すがすがしい表情をされていました。とても楽しかったので、私たちもまた「なごやかウォーク」に参加したいと思います！

「名東区安心・安全で快適なまちづくりの日 通学路ウォーキング」取材しました！

チーム名東は、2008年11月16日(日)に、名東区内の全学区で開催された「名東区安心・安全で快適なまちづくりの日：通学路ウォーキング」を取材しました。取材者は、榎山女学園大学教育学部1年生の松岡彩、守永光希、堀なつ美、牧淳美の4名です。松岡彩は名東区役所の巡回車両に同乗して、貴船、牧の原、西山、名東の各小学校をまわり、あとの3名は前山小学校に焦点をしばって取材を行いました。



前山小学校では、通学路の途中で空き缶やゴミを拾いながら歩き、小学校に到着すると、そのゴミみたらし団子3本と引き換えることができるという趣向で活動を行っていました。学校については分別についての環境講話会。講話会では名東区区役所環境事業所の丹羽さんがゴミの分別について、特に12月1日から始まる新しい分別の区分についてわかりやすく説明していました。様々な種類のゴミのサンプルを分別するクイズでは、小学4.5

年生たちが楽しみながら分別について学びました。

この活動を主催した前山学区の自治会長の加藤さんにお話を伺ったところ、「この活動は、ふれあいながら町をきれいにする活動で、安心安全快適なまちづくりを目標に行っています。今日は残念ながら雨が降っているので、例年より参加者の数が少なめですが、雨の割にはたくさん来てくれました。現在は地域の付き合いも変わってきたのでこういうイベントを通して地域が団結し、仲良くなれるといいと思います。ゴミのマナーはいくら国や市が呼びかけても地元の人が動かないと改善されません。名東区は单身の方が多く、ゴミのマナー問題がたくさんあるので、まずはゴミのマナーを徹底的に改善していきたい」とお話してくださいました。

このイベントは地域の方々がゴミ問題に改めて向き合うことのできるとても良い機会になっています。子ども達も「ゴミ分別クイズが楽しかったです。分別のことがよくわかりました！」と話してくれました。空き缶をみたらし団子に交換することができ、クイズ形式で分別について学ぶなど、親しみやすい工夫がされていて、参加者もとても楽しそうでした。ボランティアの方々はとても温かい人ばかりで、地域を良くしようという気持ちが伝わってきました。

